



「等伯さん」の習得に励む参加者  
—七尾市役所

七尾港まつり(北國新聞社共催)の第38回総踊り講習会は29日、七尾市役所で行われ、市民ら約50人が本番に向け、演目の創作民謡「等伯さん」「七尾まだら」「みなとヨイサ」の3曲の習得に励んだ。  
参加者は輪になり、手の動かし方や足の運び方を確認した。7月6日午後7時から七尾サンライフプラザでも開かれる。七尾港まつりは7月16、17日に開催され、総踊りは17日午後7時～8時20分に御祓川大通りで繰り広げられる。

議を再開し、一般会計補正予算案など議案5件を可決、報告14件を承認、請願1件を不採択とした。不嶋豊和市長が、融雪で損壊した林道城石線(同市古府町)の復旧工事を盛り込んだ一般会計7125万円(累計340億5973万円)の補正予算案を追加提出し、可決された。  
このほか、来年4月に中島地区コミュニティセンター内に移転する中島中の体育館建築工事請負契約締

珠洲市上戸町北方で喫茶店を営む浜岡由香さん(37)は喫茶店横で馬2頭の飼育を始めた。同市役所に近く、国道に面した敷地で過すポニーは来店客や通行人の人気を集めている。  
飼育するのは雄20歳のアルペと、雄6歳のオメメで、夫の宏直さん(37)の手助けを受けながら、餌の草運びや寝床敷き、毛並みの手入れなどを行う。浜岡さんは「2

# よばれ 上手に 付き合って

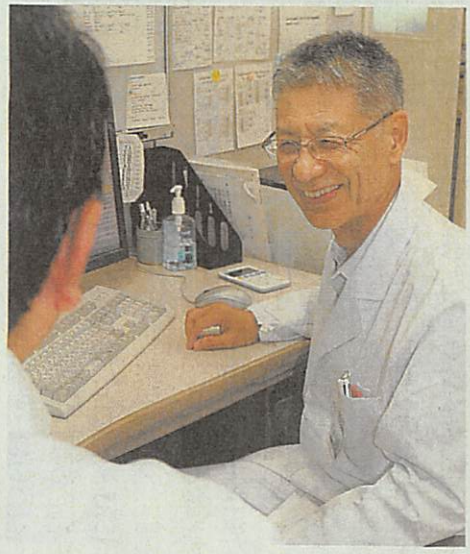
糖尿病患者や医師らでつくる糖尿病友の会が8月、珠洲市内で設立される。糖尿病の治療には食事の適正管理が重要だが、住民同士のつながりが強い能登では中高年の男性を中心に集落内の会合で飲酒する機会が多い。祭りシーズンである7～10月は客人に酒や「ちんすく」を振る舞う「よばれ」が各地で行われることから、友の会では専門家が患者に栄養面や運動面で助言し、よばれと上手に付き合う生活習慣を探っていく。

## 奥能登初

「すくすく糖尿病友の会」は、珠洲市総合病院内科の糖尿病専門医である小泉順二医師が設立発起人となり、市内の医師や看護師、栄養士、運動指導者や患者に参加を呼び掛ける。奥能登で初めての取り組みとなり、8月

## 来月、設立総会

# 珠洲で糖尿病友の会



糖尿病友の会活動を紹介する小泉医師 —珠洲市総合病院

## 栄養や運動で助言

23日に同病院で設立総会を予定している。  
糖尿病は、赤血球の指標「HbA1c」(ヘモグロビンエーワンシー)値や血糖値を基に診断される。市の統計では、2014年度に国民健康保険の特定健診を受けた市民の中で、HbA1c値が重症レベルだった人の割合は、治療中患者で県内自治体の1位、未治

きょう改  
穴水キ  
穴水町の  
キャッスル  
リニユーア  
る。1階フ  
25日に行  
わかば(七  
選で、当選  
た坂井助光  
の得票は、  
事21人のう  
約7割の15  
ることが30  
者への取材

